

役員改選で新理事も

TOKYO Xが総会

TOKYO X—Association (中村敏章会長) は5月23日、第26回総会を東京都新宿区の京王プラザホテル新宿で開催。令和6年度事業報告、7年事業計画(案)、現在の運営に合わせた規約の改正など、上程全議案を承認した。また、役員選任では

中村会長はあいさつで「会長に選任されて2年が経った。『Association』とは、集まった人がそれぞれ同じ目的を持ち、計画的に行動する団体のこと。世の

中はあらゆるものが節約志向となっているが、われわれの目的はお客さまに喜んでいただくためのTOKYO Xの価値向上だ」

なっていく。また、生産者組合と情報を密にし、互いの課題を解決しながら、常に店頭で陳列可能な頭数を育てていただくため、われわれができることを議論し、お客さま、生産者、そして社会を承認

の三方が喜ぶ環境を構築していく。皆さまと共にこの会をさらに発展させていきたい」と力を込めた。

7年度も引き続きTOKYO Xの普及活動、生産者・販売店との交流およびブランド強化に努めていく。販売店との連携を深め、より消費者に近づきやすい販促を実施。公式ホームページでの販売店検索機能の継続、SNSを活用した広告展開なども行う。

また、生産者との定期的な情報共有や交流会も実施する。さらに東京都を中心とした地域活動への参加・協賛、販売店主

の広報イベントへの協賛活動にも注力する。そのほか、時代の変化やニーズに合わせたリブランドイングを実施し、SNSを利用した広報活動を積極的に展開する。

その後、一般社団法人日本養豚協会(JPPA)の鋤柄卓夫専務理事が「最近の養豚情勢と今後の展望」について講演を行った。鋤柄専務理事は農水省による食料・農業・農村基本法の改正(24年6月)や食料・農

「おいしいといっているだけでは品質安定と顧客拡大、メディアを活用してTOKYO Xの露出度を上げ、一度で良いから食べてみたいという潜在的なお客さまを増やし、その人たちに取扱店舗を案内して購入につ

「皆さまと共にこの会をさらに発展させたい」と中村会長



「皆さまと共にこの会をさらに発展させたい」と中村会長



また、11月には「第16回東京都食育フェア」において、TOKYO X—Associationの取り組みを紹介し、試食配布や精肉販売、SNSプレゼントキャンペーンなども実施した。

7年度も引き続きTOKYO Xの普及活動、生産者・販売店との交流およびブランド強化に努めていく。販売店との連携を深め、より消費者に近づきやすい販促を実施。公式ホームページでの販売店検索機能の継続、SNSを活用した広告展開なども行う。

また、生産者との定期的な情報共有や交流会も実施する。さらに東京都を中心とした地域活動への参加・協賛、販売店主

の広報イベントへの協賛活動にも注力する。そのほか、時代の変化やニーズに合わせたリブランドイングを実施し、SNSを利用した広報活動を積極的に展開する。

その後、一般社団法人日本養豚協会(JPPA)の鋤柄卓夫専務理事が「最近の養豚情勢と今後の展望」について講演を行った。鋤柄専務理事は農水省による食料・農業・農村基本法の改正(24年6月)や食料・農

して生産性・収益性の改善⑤人口減少の逆境で増える豚肉消費、期待に応える供給力⑥養豚のあらゆる問題解決のためにチ

エックオフ実現——の提言を行っていることを説明したほか、JPPA青年部会による消費者向けの豚肉需要拡大、日本豚

ロゴマークの認知度向上を図るイベント「俺たちの豚肉を食ってくれ!」などの取り組みを紹介した。

の三方が喜ぶ環境を構築していく。皆さまと共にこの会をさらに発展させていきたい」と力を込めた。

7年度も引き続きTOKYO Xの普及活動、生産者・販売店との交流およびブランド強化に努めていく。販売店との連携を深め、より消費者に近づきやすい販促を実施。公式ホームページでの販売店検索機能の継続、SNSを活用した広告展開なども行う。

また、生産者との定期的な情報共有や交流会も実施する。さらに東京都を中心とした地域活動への参加・協賛、販売店主

の広報イベントへの協賛活動にも注力する。そのほか、時代の変化やニーズに合わせたリブランドイングを実施し、SNSを利用した広報活動を積極的に展開する。

その後、一般社団法人日本養豚協会(JPPA)の鋤柄卓夫専務理事が「最近の養豚情勢と今後の展望」について講演を行った。鋤柄専務理事は農水省による食料・農業・農村基本法の改正(24年6月)や食料・農

の広報イベントへの協賛活動にも注力する。そのほか、時代の変化やニーズに合わせたリブランドイングを実施し、SNSを利用した広報活動を積極的に展開する。